

日本社会教育学会 六月集会

プログラム

JAPAN SOCIETY for the STUDY of ADULT and COMMUNITY EDUCATION : Academic Meeting June of 2023

2023 年 6 月 3 日 (土) 13:00 ~ 17:45 (受付 12:30 ~)

6 月 4 日 (日) 10:00 ~ 16:00 (受付 9:30 ~)

6 月 3 日 (土)	受付 12:30 ~	13:00 ~ 16:00		16:15 ~ 17:45
		プロジェクト研究 「社会教育における余暇・レクリエーション の再検討」 「障害をめぐる社会教育・生涯学習」		会場校企画
6 月 4 日 (日)	受付 9:30 ~	10:00 ~ 13:00	昼食	14:00 ~ 16:00
		プロジェクト研究 「多文化・多民族共生を目指す社会教育の挑戦」		ラウンドテーブル

◇会場 田園調布学園大学 (4 頁に地図) ※オンライン参加 (オプションサービス) については 3 頁参照

◇受付 6 月 3 日 (土) 12:30 ~ 2 号館 2 階
6 月 4 日 (日) 9:30 ~ //

◇参加 事前参加申込みのみ (当日の参加受付はありません)。
参加費についても事前振込
※事前参加申込み方法については 2 頁参照のこと
※非会員の方で「会場校企画」のみ参加の方は、下記までご連絡下さい。
連絡先: 長岡 (田園調布学園大学) nagaoka@dcu.ac.jp

◇昼食 昼食は各自でご準備ください。
※大学構内のコンビニ (ヤマザキショップ) は下記のとおり、限定的な営業となります。
6 月 3 日 (土) 11:00 ~ 15:00、6 月 4 日 (日) 9:30 ~ 13:00
なお、学生食堂は、両日、営業していません。

【各地の研究集会】

◎東北・北海道研究集会 (北海道大学人文科学総合教育研究棟)	5 月 27 日 (土)・28 日 (日)	9 頁
◎東海・北陸地区社会教育研究集会 (名古屋大学教育学部講義棟 / オンライン配信)	6 月 10 日 (土)	10 頁
◎関西研究集会 (大阪教育大学天王寺キャンパス)	7 月 1 日 (土)	11 頁
◎中国・四国地区社会教育研究集会 (香美市立図書館かみーる / オンライン配信)	6 月 24 日 (土)	12 頁
◎九州・沖縄地区六月集会 (オンライン開催)	6 月 24 日 (土)	13 頁

ご注意 新型コロナウイルス感染症の影響により、日程・会場の変更や取止め等の場合がありますので、参加される方は必ず事前に学会 HP で確認するようお願いいたします。

□六月集会の事前参加申込について

六月集会参加は事前申込みとさせていただきます。

参加希望の皆さまには、学会ホームページよりオンライン参加登録手続きを行っていただきます。
(オンラインで手続きが出来ない方は、事務局までご連絡ください。)

集会の要旨は、参加登録者ページに掲載し、各自で閲覧していただくようになります。

集会当日の参加受付はいたしませんので、必ず事前に参加申込み(事前振込)をお忘れなきようお願いいたします。

準備の都合上、お申込み後のキャンセルはご遠慮ください。新型コロナウイルス感染症対策下での運営のため、ご迷惑・ご不便をおかけすることをご理解いただき、円滑な集会運営にご協力いただければ幸いです。

●オンライン事前参加申込受付：5月1日(月)～5月21日(日)

学会HPの画面左下にある＜六月集会参加申込システム＞から参加登録をしてください。

下記振込先に入金してください。入金が確認できない場合は、参加申し込みとなりませんので、ご注意ください。

※**院生・学部生も参加申込みが必要です(学生証添付の上、参加費無料)。**

●参加費の支払い：一般 1,500 円／院生・学部生 無料

振込先：ゆうちょ銀行

振替口座：00150-1-87773

口座名：日本社会教育学会

◎他金融機関からの振込用口座番号：〇一九(ゼロイチキュウ)店(019)当座 0087773

●問合せ先

日本社会教育学会事務局 ≪HP <https://www.jssace.jp/>≫

〒189-0012 東京都東村山市萩山町 2-6-10-1F

E-mail：jssace.office ◎ gmail.com (◎を @ に変えてください)

(祝祭日除く月・木曜日 10:30-16:30 リモートワーク中)

□参加者への注意事項

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、開催方法等の変更になる場合がありますので、参加される方は、必ず事前に学会 HP で確認するようお願いいたします。
- ・会場校の構内でのマスクの着用は任意です。ただし、状況次第では着用をお願いすることになりますのでご承知おき下さい。

□オンライン参加（オプションサービス）について

- ・本集会は「対面開催」ですが、プロジェクト研究・会場校企画についてはオプションサービスとしてオンラインで参加することもできます。ただし、十分なサポートはできませんので、ご了承ください。
- ・本集会では、すでに多くの大学等での実績があるオンライン会議システム「Zoom」を使用します。
- ・オンライン会議室では最大接続数があり、これを越えると入室することはできません。あらかじめご了承ください。また、多くの皆様に参加していただくため、1 人の方が複数の端末を使って複数の発表に同時にアクセスすることをご遠慮ください。
- ・基本的に、録画による受信映像や画面共有資料の保存（画面キャプチャーを含む）、録音、再配布を禁止します。ただし、発表者や主催者の許可があった場合はその限りではありません。
- ・チャット機能を使用して当日に資料を配付することがありますが、配布後に参加した場合はその資料をダウンロードできないことがあります。
- ・無用な音声の流入・ハウリングや、不安定なネットワークからの接続などによりセッションの進行に支障があると判断される場合には、ホスト側によりミュート操作を行ったり、接続を切断したりする可能性があります。
- ・その他、進行にあたっては司会者・ホストの指示に従っていただけますようお願いいたします。

□会場校企画について

- ・会場校企画は、「一般公開」といたしますので、非会員の一般の方もご参加いただけます。ただし、対面での参加のみとさせていただきます。

□会場（田園調布学園大学）のご案内

◇住所：〒215-8542 神奈川県川崎市麻生区東百合丘 3-4-1

◇アクセス：

- ・小田急線「新百合ヶ丘駅」下車

小田急バス ⑦番のりば

新 20「田園調布学園大学行」終点下車（バス約 10 分）

新 25「たまプラーザ駅行」田園調布学園大学前下車（バス約 10 分）

川崎市営バス ②番のりば

溝 11「溝口駅南口方面」田園調布学園大学前下車（バス約 10 分）

- ・東急田園都市線「たまプラーザ駅」下車

東急バス・小田急バス ⑥番のりば

「新百合ヶ丘駅行」田園調布学園大学前下車（バス約 16 分）

- ・東急田園都市線・横浜市営地下鉄「あざみ野駅」下車

東急バス④番のりば

「田園調布学園大学行」終点下車（バス約 18 分）

◇連絡先：長岡 智寿子（田園調布学園大学 人間科学部）

電話：080-3214-7894（5月中旬～6月4日まで受信可）

Email：nagaoka@dcu.ac.jp

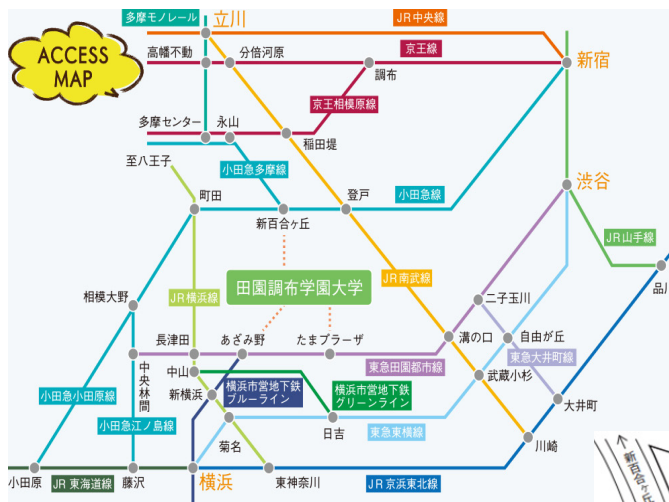
小田急バス



東急バス



川崎市バス



*お車で越しの方は、キャンパス脇の車道から
体育館横の駐車場をご利用下さい。

日本社会教育学会六月集会

田園調布学園大学

【第1日 6月3日（土）】



プロジェクト研究「社会教育士学における余暇・レクリエーションの再検討」

----- 13:00 ~ 16:00

テーマ 余暇・レクリエーションへのまなざしをめぐる社会教育学と余暇社会学の交錯と分化

司 会 歌川 光一（聖路加国際大学）

報告Ⅰ 「社会教育と表現活動—地域文化研究会の発足と今・短歌にみる表現と自己解放—」

飯塚 哲子（東京都立大学）

報告Ⅱ 「「勤労青年」・「労働者」に向けた社会教育事業における趣味の位置づけ

—戦後関西地域の青年学級と労働学校を事例として—

奥村 旅人（同志社大学）

報告Ⅲ 「趣味を題材にした生涯学習番組的教育性

—1980年NHK教育テレビ『趣味・技能講座』を事例に—

杉山 昂平（東京大学）

コメンテーター 坂内 夏子（早稲田大学）、川原 健太郎（作新学院大学）

企画趣旨 2022年度開始のプロジェクト研究「社会教育学における余暇・レクリエーションの再検討」の第2回目の集会企画として開催する。

本プロジェクトでは、「余暇（レジャー）」「体育及びレクリエーション」「学習」「メディア」「教養」等を視点として、戦後の社会教育学と余暇・レクリエーションの関係を再考している。今回の企画でもこれらの視点に基づき、戦後から生涯学習概念受容前後のアマチュアの文化・芸術活動の実践やその意義を検討していく際に特に中核となる研究群である、地域文化研究、勤労青年の教養、マス・メディアを通じた学習、に関わると報告をいただく。同時期は、学術的には余暇社会学について、大衆文化、民衆娯楽、生活文化研究の進展（余暇（レジャー）のあり方への懐疑も含む）、「遊び」論の受容等が見られた時期であり、また政策上では青少年の余暇のあり方が議論された時期でもある。今回の報告と議論を通じ、社会教育学と余暇社会学の余暇・レクリエーションに対するまなざしがどのように交錯もしくは分化していったか、多くの学会員と検討・共有したい。



プロジェクト研究「障害をめぐる社会教育・生涯学習」

----- 13:00 ~ 16:00

テーマ 障害をめぐる社会教育・生涯学習の理論構築に向けて—プロジェクト研究からの提案—

司 会 河野 明日香（名古屋大学）・辻合 悠（八尾市役所）

報告Ⅰ 「地域及び権利・制度の観点から」

池田 法子（足利短期大学）

報告Ⅱ 「マジョリティの観点から」

井上 太一（神戸大学大学院）

報告Ⅲ 「当事者・家族・支援者の観点から」

増本 佐千子（東京農工大学大学院）

コメンテーター 宮崎 隆志（北海道大学名誉教授）

企画趣旨 本プロジェクト研究では、①地域及び権利と制度、制度化の先にある学び、②マジョリティ・健常者・中心社会の学びや意識変容、③当事者・家族・支援者の学びやエンパワメントをテーマにした3つのグループに分かれ、それぞれの観点から障害をめぐる社会教育・生涯学習の現状や課題について検討してきた。

最終年度となる今回の六月集会においては、この3つの観点に沿って明らかになったことや残された課題について、各グループから報告を行う。

まず、地域及び権利・制度の観点からは、池田法子会員（足利短期大学）が報告する。障害をめぐる社会教育に関わる多様な実践を足場に、過度に専門分化して専門家依存が生まれている現状を批判的に考察し、多様性が尊重される地域を創成する条件を検討する。

次に、マジョリティの観点からは、井上太一会員（神戸大学大学院）が報告する。これまでの社会教育学研究において「障害」の問題がどのように扱われてきたかを、マジョリティ・健常者・中心社会という観点から改めてとらえ直すとともに、障害の社会モデルに基づきマジョリティの変容を意図した実践としての「障害平等研修」を社会教育の観点から検討する。

最後に、当事者・家族・支援者の観点からは、増本佐千子会員（東京農工大学大学院）が報告する。障害をめぐる学びの場において、当事者と非当事者が、どのように「障害」の問題への「当事者性」を学び育んできたのかについて検討し、そうした学びがいかに当事者と非当事者の間の関係性や、当事者を取り巻く社会の変革を展望できるのか、課題提起を行う。

以上の3つの報告を通して、これまでの社会教育学研究で扱われてきた「障害」をめぐる問題について改めて整理し、障害をめぐる社会教育・生涯学習についての新たな理論枠組みの構築に向けた足掛かりとする。

会場校企画「学習権保障と社会教育：自主夜間中学における「実践」から」

----- 16：15～17：45

司 会 長岡 智寿子（田園調布学園大学）
報告者 前川 喜平（現代教育行政研究会）
安田 隆（神奈川・横浜の夜間中学を考える会）
岩井 富喜子（自主夜間中学「あつぎ えんぴつの会」）
廣田 久美子（自主夜間中学「えびな えんぴつの会」）

コメンテーター 米山 光儀（田園調布学園大学）

企画趣旨 「不登校児童」をめぐる問題が問われ始めて久しい。直近の文部科学省の報告によれば、全国の小中学校で2021年度に不登校だった児童生徒は24万4,940人で過去最多となった。また、2020年の国勢調査によれば、約90万人（898,748人）もの義務教育未修了者が存在していることが明らかになった。

基礎的な学習を学ぶ「学校」の存在をどのように考えるのか、また、「もう一度、学びたい」という人たちの声を、社会教育においてはどのように捉えていくことができるのか。本企画では、神奈川県下において人びとの「学び」を支援する活動に取り組まれている方々から、その「実践」についてご報告いただき、共に考えていきたい。なお、本企画は「一般公開」とし、広く会員以外の一般の方々の参加も呼びかける。

【第2日 6月4日（日）】

プロジェクト研究「多文化・多民族共生を目指す社会教育の挑戦」 --- 10:00 ~ 13:00

テーマ 社会教育における多文化・多民族共生をめぐる論点の整理

司 会 新矢 麻紀子（大阪産業大学）・岩槻 知也（京都女子大学）

報告Ⅰ 「多文化・多民族共生をめぐる日本社会の現状」

金 侖貞（東京都立大学）

報告Ⅱ 「日本社会教育学会で多文化・多民族共生はどのように取り組まれてきたのか」

ハスゲレル（東京都立大学）・高坂 千夏子（東京都立大学大学院）

報告Ⅲ 「『共生』概念の流行と破たん ―何を問うべきか?―」

能勢 桂介（立命館大学生存学研究所）

コメンテーター 広瀬 健一郎（鹿児島純心大学）

企画趣旨 「多文化・多民族共生を目指す社会教育の挑戦」は、2023 年度から始まる新しいプロジェクト研究である。日本社会教育学会における多文化・多民族共生の 이슈は、年報『多文化・民族共生社会と生涯学習』（1995 年）や年報『アイヌ民族・先住民族教育の現在』（2004 年）においてとりあげられていたが、多文化・多民族共生をめぐる日本社会の状況が変わってきている中で、社会教育の課題として多文化・多民族共生の問題をいま一度定立していく必要があると思われる。

今回の企画においては、社会教育研究の中でどうして多文化・多民族共生の捉え直しが求められるのかという問題意識の共有を試みる。まず、金侖貞会員は、主に 1995 年年報以降の多文化・多民族共生に関する政策をはじめとした動きを追いながら、多文化・多民族共生の現状を示す。次に、ハスゲレル会員と高坂千夏子会員からは、社会教育学会の紀要や年報、研究大会などで取り組まれた研究の蓄積から、日本社会教育学会における多文化・多民族共生をめぐる論点を検討してもらう。これらの 2 つの報告を踏まえながら、能勢桂介会員からは、本プロジェクト研究における中心キーワードとなる「共生」概念を欧米や日本における研究をレビューしながら共生概念の批判的考察を行ってもらい、今後社会教育における多文化・多民族共生の展望につながる手がかりを提示して頂く。

ラウンドテーブル ----- 14:00 ~ 16:00

①社会教育法 70 年と社会教育法制をめぐる課題（その 7）

―博物館法施行規則一部改正省令公布をふまえて（その 5）―

コーディネーター 長澤 成次（千葉大学名誉教授）・姉崎 洋一（北海道大学名誉教授）

栗山 究（法政大学非常勤講師）・金子 淳（桜美林大学）

青木 加苗（和歌山県立近代美術館）・生島 美和（帝京大学）

瀧端 真理子（追手門学院大学）・石川 敬史（十文字学園女子大学）

報告者 栗山 究（法政大学非常勤講師）
梨本 加菜（鎌倉女子大学）
山内 宏泰（リアス・アーク美術館）

開催趣旨 社会教育法 70 年を契機に企画された本ラウンドテーブルも今回で 7 回目を迎える。改正博物館法の 2023 年 4 月 1 日施行を前に、「都道府県の教育委員会が前項第三号から第五号までの基準を定めるに当たっては、文部科学省令で定める基準を参酌するものとする」（法第 13 条 2 項）に係る改正博物館法施行規則が 2023 年 2 月 10 日に公布された。文化審議会答申・博物館法改正・省令改正という一連の流れのなかで問われたものは何であったのか。それぞれのお立場からご報告をいただき討議をすすめていきたい。

②支援の重層性をめぐる調査研究の方向性

—子ども・若者支援に携わる専門職の力量形成と研修等のあり方（3）—

コーディネーター 生田 周二（奈良教育大学）
報告者 生田 周二（奈良教育大学）
大村 恵（愛知教育大学）
佐藤 洋作（文化学習協同ネットワーク）

開催趣旨 子ども・若者支援の「支援の重層性」について、支援対象と担当機関・団体等の多様性を踏まえ、(1) 支援の枠組み、(2) 支援方法、(3) 連携・協働の 3 側面から、日独の比較調査を行う予定である。その調査研究に向けて、子ども・若者支援地域協議会の事例、民間セクターの事例を受けて、支援の諸相を重層的に捉え、支援対象、専門職、その養成・研修の状況も踏まえつつ構造的に把握する枠組みを検討しようとする。

東北・北海道研究集会（第 47 回）

北海道大学

5月27日（土）13:00～17:00

5月28日（日）10:00～15:00

地域再生への教育計画（4）

◇主催：日本社会教育学会第 47 回東北・北海道地区六月集会実行委員会

共催：北海道大学大学院教育学院生涯学習論講座

◇プログラム：

5月27日（土）13:00～17:00

シンポジウム：地域再生への教育計画（4）（内容詳細未定）

5月28日（日）10:00～15:00

自由研究発表

◇会場：北海道大学 人文・社会科学総合教育研究棟(W棟)（〒060-0811 札幌市北区北 10 条西 7 丁目）

27 日（W410）、28 日（W509・W518）（予定）

◇アクセス：JR 札幌駅から徒歩で約 10 分、または地下鉄南北線北 12 条駅から徒歩約 10 分

◇連絡先：

辻 智子（北海道大学）

Email：tsujitomoko@edu.hokudai.ac.jp

丸山 美貴子（北海道大学）

Email：maru@edu.hokudai.ac.jp

〒060-0811 札幌市北区北 11 条西 7 丁目 北海道大学大学院教育学研究院

電話：011-706-3090（辻）



6月10日(土) 13:00～16:00

子ども・若者の学びと社会教育施設の役割 ―名古屋市の実践から―

◇主催：日本社会教育学会東海・北陸地区社会教育研究集会実行委員会

共催：名古屋大学大学院教育発達科学研究科

◇プログラム：

司会 河野 明日香（名古屋大学）

報告1 「名古屋の子ども・若者支援をとりまく現状と地獄的背景」

船橋 理仁（名古屋大学大学院）

報告2 「名古屋市における施設運営の課題とユースワークの到達点」

白川 陽一（特定非営利活動法人子ども & まちネット）

報告3 「地域で子ども・若者を支える施設の現在」

―児童館指定管理者、子ども・若者支援事業を受託するNPOによる成果と課題―

山田 恭平（特定非営利活動法人こどもNPO）

コメンテーター 辻 浩（名古屋大学）

趣 旨 子ども・若者支援においては、社会教育施設を拠点として多くの実践が展開される一方で、指定管理者制度の導入によりその活動が不安定化する実態も見えてきている。このような現在において、子ども・若者の学びとそれを支える社会教育施設の役割が今一度問われている。こういった関心から、本集会では「子ども・若者の学びと社会教育施設の役割―名古屋市の実践から―」と題し、主に名古屋市の実践をもとに議論を深めたい。

◇会場：名古屋大学教育学部講義棟 2 階大講義室（〒464-8601 名古屋市千種区不老町 東山キャンパス）
オンライン配信のハイブリッド開催を予定（オンラインでのご参加のお申し込みをされた方には後日、URL をご連絡します）

◇アクセス：地下鉄名城線 名古屋大学駅下車 徒歩3分

地下鉄東山線本山駅乗り換え 地下鉄名城線（右回り：八事・新瑞橋方面）名古屋大学駅

地下鉄鶴舞線 八事駅乗り換え 地下鉄名城線（左回り：本山・大曽根方面）名古屋大学駅

◇申込：事前申し込みをお願いします。

申込先 <https://forms.gle/LjiEfwTEh8kxutfz9> 申込締切 2023 年 6 月 2 日（金）

◇連絡先：河野 明日香（名古屋大学）

〒464-8601 愛知県名古屋市千種区不老町 名古屋大学大学院教育発達科学研究科

Email: kawano.asuka.w4@f.mail.nagoya-u.ac.jp



第 47 回 関西研究集会

大阪教育大学

7 月 1 日 (土) 10:30 ~ 16:30

現場とともに交流と対話の方法をさぐる (2)

ー地域学校協働活動が期待する社会教育実践とは?ー

◇プログラム:

午前の部 開会の辞 堀 薫夫 (大阪教育大学名誉教授)

司 会 出相 泰裕 (大阪教育大学)

基調講演「地域学校協働活動と社会教育ー現状と今後への期待ー」

高田 一宏 (大阪大学)

コメンテーター 赤尾 勝己 (関西大学)

午後の部 事例報告&全体討議

司 会 新矢 麻紀子 (大阪産業大学)

コーディネーター 松岡 廣路 (神戸大学)

報告 1 「コーディネーターの立場から見た地域学校協働活動における社会教育への期待」

関川 雅之 (滋賀県竜王町公民館)

報告 2 「学校の立場からみた地域学校協働活動における社会教育への期待」

石村 和彦 (大阪府和泉市立国府小学校)

報告 3 「社会教育実践としての地域学校協働活動の意義・可能性ー箕輪公民分館の取り組みからー」

福本 雅一 (大阪府豊中市立箕輪公民分館)

閉会の辞 林 美輝 (龍谷大学)

◇会場：大阪教育大学天王寺キャンパス西館 (〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀町 4-88)

◇アクセス：JR 天王寺駅、地下鉄天王寺駅、近鉄大阪阿部野橋駅下車、徒歩約 10 分。

JR 寺田町駅下車、徒歩 5 分

◇申込：事前申し込みをお願いします。

申込先 <https://forms.gle/T1G77bq2U7ZZVd4i9> 申込締切 2023 年 6 月 28 日 (水)

◇連絡先：出相 泰裕 (大阪教育大学) 〒631-0816 大阪府柏原市旭が丘 4-698-1 大阪教育大学内

電話：072-978-3467 Email：deai@cc.osaka-kyoiku.ac.jp



6 月 24 日（土）13：15～16：30

社会教育と地域協働（その 2）

※オンライン参加の場合は 13：45～16：30 となります。報告開始前に施設見学を予定しているため、開始時刻が現地での対面参加の場合と異なります。

◇プログラム：

司 会 内田 純一（高知大学）

報告 1 「高知大学における社会教育主事（社会教育士）養成の現状と課題」

齊藤 雅洋（高知大学）

報告 2 「社会教育主事講習の学びと修了後の実践：NPO の立場から」

野村 ゆかり（一般社団法人 地域学校協働・家庭教育支援・世代間交流センター「もうひとつの大きな家族」）

報告 3 「社会教育主事講習の学びと修了後の実践：公民館の立場から」

依光 隆司（香美市立中央公民館）

報告 4 「社会教育主事（社会教育士）養成課程の学びと修了後の進路～私たちは地域のヒーローになる～」

高橋 里帆（高知大学・学生）、伊藤 美紀（高知大学・学生）

コメンテーター 松田 弥花（広島大学）、大村 隆史（香川大学）

趣 旨 地域づくり・社会教育の実践者（社会教育士の称号取得者）にスポットを当て、社会教育主事講習や社会教育主事養成課程でどのようなことを学び、修了後の実践にどう活かしているのか（修了後の進路にどう活かそうとしているのか）、修了後の力量形成をめぐるどのような課題を抱えているのか、実践を支える学びの成果や修了後の課題について検討する。

◇会場：香美市立図書館かみーる〈対面・オンライン併用〉 高知県香美市土佐山田町楠目 736 番地

◇参加申込：オンライン参加の方は 6 月 19 日（月）までに下記連絡先へメールでお申込みください。

対面参加の方は直接会場へお越しください。

◇アクセス：

車：高知道（高速道路）南国 IC から約 20 分、駐車場 47 台

鉄道：岡山から JR 特急で 2 時間 20 分、高知から JR 特急

で 15 分、JR 土讃線「土佐山田駅」下車、香美市営バス（あけぼの街道線）で 6 分、停留所「かみーる」下車

◇連絡先：齊藤 雅洋（高知大学）

高知県高知市曙町二丁目 5-1 高知大学朝倉キャンパス

電話：088-888-8048

Email：m-saito@kochi-u.ac.jp



九州・沖縄地区六月集会

オンライン開催

6 月 24 日（土）13:00～16:00

地方農村における外国人の労働・生活と社会教育

◇プログラム：

基調報告「地方農村における外国人の労働・生活の現在―北海道を中心に―（仮）」

宮入 隆 氏（北海学園大学）

事例 1 「都城市における外国人技能実習生への日本語教室」

栢木 順子 氏（霧島ヒスカル）

事例 2：「地域と地域に住む外国人をつなぐ交流基地「地球人 BASE」の活動紹介」

荒井 圭美 氏（地球人 BASE）

コメンテーター 神田 嘉延（鹿児島大名誉教授）、酒井 佑輔（鹿児島大学）

司 会 植村 秀人（南九州大学）

※会員は敬称略。

趣 旨 地域社会から疎外された人々への学習保障は社会教育における重要な課題となっている。その中で今回、地方農村における外国人への教育問題をテーマとして 6 月集会を開催する。地方農村においても労働者不足などを背景として外国人技能実習生等が数多く居住しているが、彼らは日本語教育の機会だけでなく、多くの課題が放置されている。その中で、宮崎県都城市・三股町では、居住する外国人への学習支援などが行われている。

本集会では、北海道中心に農村における技能実習生に関する研究をされている宮入隆氏（農業経済学）に基調報告を頂いたうえで、都城市・三股町における事例報告、そして参加者による議論を行う。

◇開催方法：オンライン（Zoom）

◇参加費：無料

◇申込み：グーグルフォームに 6 月 20 日までに申し込みいただき（先着 100 名）、6 月 21 日に ZOOM のアドレスを送付いたします。

申込フォーム URL <https://forms.gle/wayJHouVH9kWLbmv6>



◇連絡先：植村 秀人（南九州大学）

〒885-0035 宮崎県都城市立野町 3764-1 南九州大学都城キャンパス 教養教育センター

Email: h-uemura@nankyudai.ac.jp

日本社会教育学会 2023 年度六月集会・研究集会プログラム
2023 年 4 月 26 日発行

【発行】日本社会教育学会事務局

〒189-0012 東京都東村山市萩山町 2-6-10-1F

E-mail : jssace.office@gmail.com <https://www.jssace.jp/>

【会費等納入先】

ゆうちょ銀行 振替口座 00150—1—87773（口座名：日本社会教育学会）

他金融機関からの振込用口座番号 〇一九（ゼロイチキュウ）店（019）当座 0087773
